

わたし、待っているからネ!

「お母さん! 私死んだら何処へ行くの? 教えてよ! お母さん!」と、二十歳になったばかりの一人娘さんが、当時はまだ聞きなれない「白血病」という病魔におかされたのです。治療の方法も策もなく(四十年後の現在もそうらしいですが)、だた、死を待つばかりの日々でありました。

「あなたは絶対死なないんだからネ!」と繰り返していたお母さんも、極度に衰弱が進む状態に耐えられなくなって、とうとう「あなた死んだらネ、仏さまの国にいくのよ!」と、娘を抱きしめて、呻くように叫ばれたそうです。その時返ってきた返事が「アッそう! だったらお母さんも後で来るんだよネ! 私、待ってるからネ!」でありました。

このお母さんも、先日、令和八年三月、八十八年の人生を終えられ、お浄土に還って逝かれました。「お母さん! 待ってたのよ!」と抱き合って、再会を喜んでおられることでしょう。その様が私の脳裡に浮かんでくるのです。

